

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和元年8月20日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士後期課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)
日本、東京・国際フォーラム
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)
丸の内キッズジャンボリー
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
令和元年8月11日～8月17日 (7日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
野生動物研究センター 新宅勇太 特定助教、福島誠子 特定助教
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<b>行程</b>
8月11日(日)：移動
8月12日(月)～8月15日(木)：東京・丸の内キッズジャンボリー
8月17日(土)：帰宅
<b>概要</b>
東京・国際フォーラムで開催された丸の内キッズジャンボリーに参加した。今年は、「はしる！ とぶ！ およぐ！ 世界の動物アスリート」というテーマで、動物の運動能力や移動様式にちなんだ種々の展示が用意された。報告者はそのなかでも主に低学年向けの工作コーナーとワークショップを担当した。
工作コーナーでは、折り紙・粘土・塗り絵を用意したが、とくに粘土が人気であった。動物の身体の一部を隠した写真を見せ、粘土でその身体部位をつくってもらうという展示であった。このやり方自体はあまりうまくいかなかったが、来場者は粘土で思い思いの作品をつくっており楽しんでもらったように思う。
ワークショップは初日に二度おこない、各回30名弱の参加者にチンパンジーに関する話をした。展示のテーマにあわせて、チンパンジーの身体や移動様式について大まかに話したほか、チンパンジーの道具使用行動を紹介した。その他、チンパンジーのナッツ割り・アリ釣り行動にちなんだゲームを用意した(Fig. 1)。どちらの回も小学校低学年の参加者が多かった。積極的な参加者が多く、いろいろな意見をきくことができた。各回45分で当初は長く感じていたが、ゲームを2つ入れたこと、また参加者に積極的に発言してもらえたことであつという間に時間が過ぎた。
<b>6. その他</b> (特記事項など)



Figure 1. ワークショップで使用した物品。

**「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書**

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

他の出展参加者のみなさま（京都大学霊長類研究所・野生動物研究センター、日本モンキーセンター）に御礼申し上げます。特に、野生動物研究センター 新宅勇太特定助教、福島誠子特定助教、内藤 Annegret 素氏には大変お世話になりました。また、PWS 支援室の左海陽子氏に御礼申し上げます。さいごに、準備にあたってご協力いただいた京都大学 ILAS セミナー参加者のみなさまに御礼申し上げます。